

「1-Second Performance Monitor」オプションを使用したパフォーマンス統計情報の収集

目次

[概要](#)

[1 秒 パフォーマンスモニタ](#)

[バージョン 5.4 または それ 以降のイネーブル](#)

[5.4 以前のバージョンのイネーブル](#)

[関連資料](#)

概要

Sourcefire ソフトウェアを実行するアプライアンスでモニタがパフォーマンスに単独で報告する基本的なパラメータを設定でき。パフォーマンス統計情報は Snort を実行するアプライアンスのパフォーマンスに関連する問題を解決して重要です。この資料は FireSIGHT Management Center を使用してこの機能を有効にするためにステップを提供したものです。

警告： ネットワークがライブであり、稼働システムの 1 秒 パフォーマンスを有効にすれば、ネットワークパフォーマンスに影響を与えることができます。これがトラブルシューティングする 目的で Cisco テクニカル サポートによって要求されるときだけこれを有効にする必要があります。

注: このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。

1 秒 パフォーマンスモニタ

1 秒 パフォーマンスモニタ 機能は次の設定によるデバイスのシステム アップデート パフォーマンス統計情報 間隔を規定 することを可能にします:

- 秒数
- 分析されるパケットの数

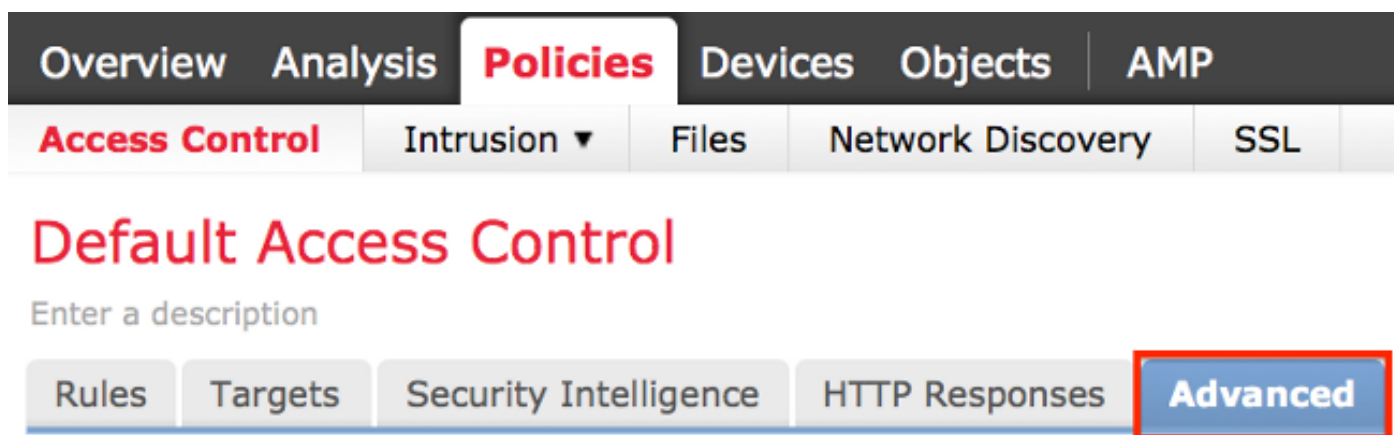
パケットの指定 番号は分析されたことを最後のパフォーマンス統計情報 アップデートが、システム確認するので規定される 秒数が経過した時。その場合、システム アップデート パフォーマンス統計情報。そうでなかったら、システムは待っていますパケットの指定 番号が分析されるまで。

バージョン 5.4 または それ 以降のイネーブル

ステップ 1: > アクセスコントロール 『Policies』 を選択して下さい。アクセスコントロールポリシー ページは提示されます。

ステップ 2: 編集したいと思うアクセスコントロール ポリシーの隣で鉛筆アイコンをクリックして下さい。

ステップ 3: [Advanced] タブを選択します。アクセスコントロール ポリシーによって進められる Settings ページは現われます。



Overview Analysis **Policies** Devices Objects AMP

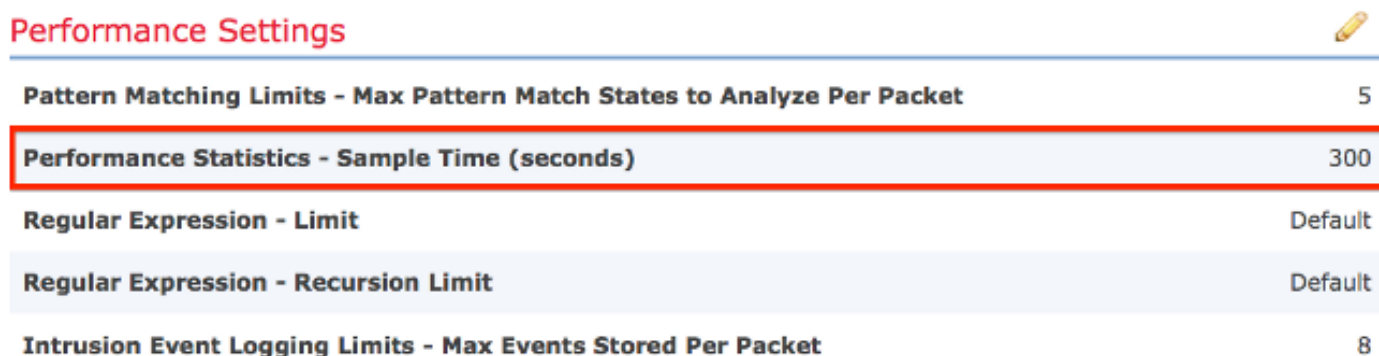
Access Control Intrusion ▾ Files Network Discovery SSL

Default Access Control

Enter a description

Rules Targets Security Intelligence HTTP Responses **Advanced**

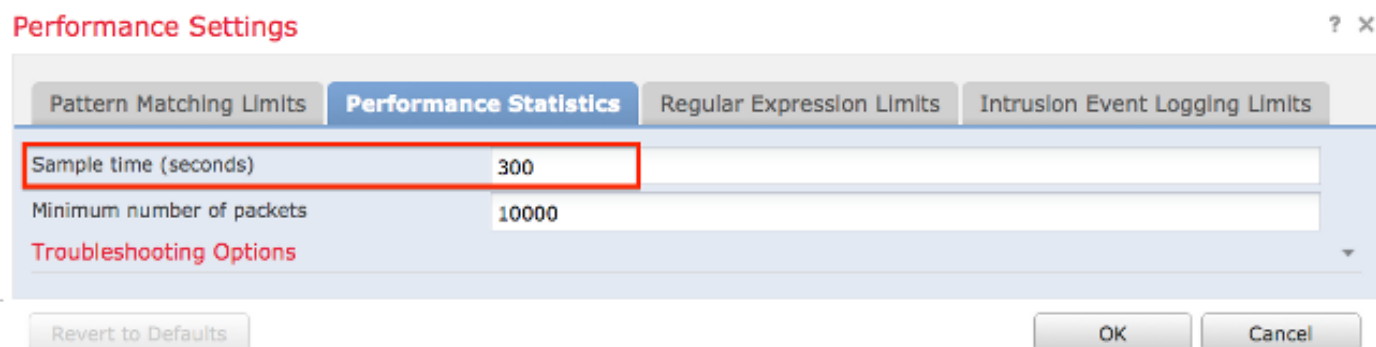
ステップ 4: パフォーマンス設定の隣で鉛筆アイコンをクリックして下さい。



Performance Settings

Pattern Matching Limits - Max Pattern Match States to Analyze Per Packet	5
Performance Statistics - Sample Time (seconds)	300
Regular Expression - Limit	Default
Regular Expression - Recursion Limit	Default
Intrusion Event Logging Limits - Max Events Stored Per Packet	8

ステップ 5: 現われるポップアップ ウィンドウのパフォーマンス統計情報タブを選択して下さい。パケットのサンプル時が最小番号を上記されているように修正して下さい。



Performance Settings ? ×

Pattern Matching Limits **Performance Statistics** Regular Expression Limits Intrusion Event Logging Limits

Sample time (seconds)	300
Minimum number of packets	10000

Troubleshooting Options ▾

Revert to Defaults OK Cancel

ステップ 6: 任意でそうすることを Cisco TAC によって尋ねられた場合だけ、トラブルシューティング オプション セクションを拡張し、それらのオプションを修正して下さい。

ステップ 7: [OK] をクリックします。

ステップ 8：実施されるために変更のためのアクセスコントロール ポリシーを保存し、適用して下さい。

5.4 以前のバージョンのイネーブル

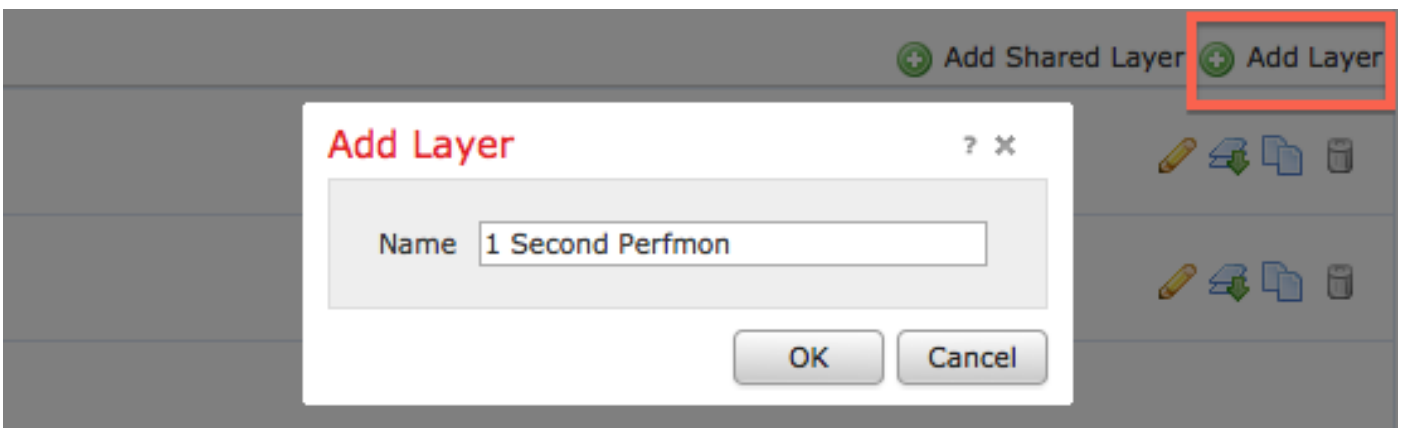
ステップ 1：不正侵入 ポリシー ページへのナビゲート。FireSIGHT Management Center へのログイン。[Policies] > [Intrusion] > [Intrusion Policy] に移動します。

ステップ 2：適用したいと思う不正侵入 ポリシーを編集して下さい。ポリシーを編集するために鉛筆アイコンをクリックして下さい。

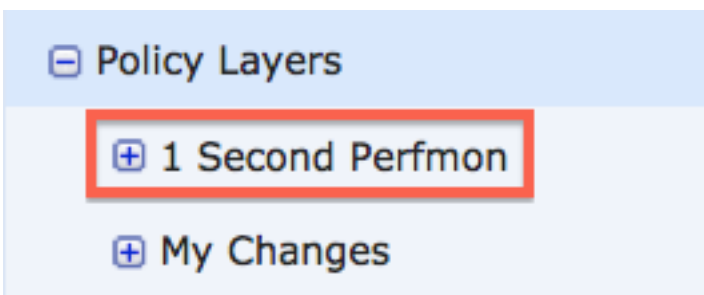


注: この詳細設定の設計が原因で、アクセスコントロール ポリシーのデフォルト アクションとして使用されている不正侵入 ポリシー内のこの設定しか修正しなくて下さい。

ステップ 3：ポリシー 層を追加して下さい。ポリシー層をクリックし、次に層を追加して下さい。層「1秒 Perfmon」を挙げて下さい。









左パネルのポリシー層をチェックし、新しい層「1秒 Perfmon」がとりわけ他の層であることを確かめて下さい。



ステップ 4：パフォーマンス統計情報 設定を有効に して下さい。パフォーマンス設定の下で、パフォーマンス統計情報 設定の隣で有効になる オプション ボタンを選択し『Edit』をクリックして下さい。

Performance Settings

Event Queue Configuration	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled	 Edit
Latency-Based Packet Handling	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled	 Edit
Latency-Based Rule Handling	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled	 Edit
Performance Statistics Configuration	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled	 Edit
Regular Expression Limits	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled	 Edit
Rule Processing Configuration	<input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled	 Edit

ステップ 5：1秒にデフォルト サンプル時間、および 100 つのパケットにパケットの最小番号を修正して下さい。

Performance Statistics Configuration

Settings

Sample time	<input type="text" value="1"/>	seconds
Minimum number of packets	<input type="text" value="100"/>	

ステップ 6：左パネルのポリシー情報をクリックし、変更を保存し、プロファイルすることを望むデバイスに更新済ポリシーを適用して下さい。

Policy Information

- Variables
- Rules
- FireSIGHT Recommendations
- Advanced Settings

ステップ 7：データを収集した後設定を戻して下さい。戻るために、「1秒 Perfmon」ポリシー層を単に削除して下さい。

注意：設定を戻すことを忘れないで下さい。さもなければ、それはパフォーマンス上の問

題を引き起こすかもしれません。

関連資料

- [不正侵入 イベント パフォーマンスの表示](#)
- [不正侵入 イベント パフォーマンス統計情報グラフの生成](#)